世界遺産への登録をめざす
武家の古都・鎌倉ニュース
国際会議特集号
Vol.13
秋号/Autumn 2009
第13号平成21年(2009年)10月発行
発行：鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集：広報部会　編集人：内海恒雄

◆ 第２回「武家の古都・鎌倉」国際会議 ◆

世界遺産登録に向けて開催

「武家の古都・鎌倉」の世界文化遺産への登録をめざし、海外から世界遺産に精通する文化遺産保護などの専門家を招いて、現状や課題について検討を行う国際会議の２回目が、文化庁と神奈川県･横浜市･鎌倉市･逗子市世界遺産登録推進委員会との共催で、平成21年７月30日から８月２日にかけて葉山町の湘南国際村センター及び鎌倉市の鎌倉女学院中学校・高等学校で開催されました。

今回の国際会議は、本年１月29日から２月１日にかけて開催された第１回国際会議での成果を踏まえ、登録に向けた顕著な普遍的価値の考え方や保存管理の考え方について協議・検討することで、さらなる国際的な評価を形成し、地元としての最終的なとりまとめを行うことを目的としたものです。

朝夷奈切通の視察風景

今回も､英国のクリストファー･ヤングさん（イングリッシュ･ヘリテージ／考古学)、中国のル・ズーさん（清華大学／歴史建築)、米国のジョセフ・キングさん（文化財保存修復研究国際センター／文化遺産保護）が参加され、日本からは清水眞澄さん（成城大学学長／美術史)、五味文彦さん（放送大学教授／歴史）をはじめとする鎌倉の推薦書原案作成委員会の方々や、稲葉信子さん（筑波大学大学院教授／文化遺産保護）が参加されました。また､マルタのレイ･ボンディンさん(イコモス歴史都市委員会／歴史遺産保護）は日程が合わなかったため、７月16日、17日に招き、個別に意見交換が行われました。

7月30日には前回視察できなかった候補資産を中心に、覚園寺や寿福寺、和賀江嶋や朝夷奈切通などの視察が行われました。

意見交換会風景

そして、31日、８月１日には国内外の専門家による意見交換会が開催され、保存管理については、周囲の山の尾根を含めた内側全体が様々な法律で保護されている点が評価されるとともに、水位変化などの気候変動への対応や地域社会や子供向けの教育・研修の必要性などについて意見が出されました。また、顕著な普遍的価値については、武家文化の定義をさらに明確にすることの重要性や、独自の土地利用やまちづくりの結果として武家文化の源流が形成されたことを強調することの必要性、そして武家文化の形成に重要な役割を果たした周囲の山を景観的な観点から評価できないか、といった意見が出されました。

８月２日には、世界の貴重な遺産を確実に未来へ継承していくという世界遺産の目的に基づき、地域が関わりながら文化財を保存していく意義をテーマとして国際フォーラムが開催されました。詳細は次ページ以降をご覧ください。

寿福寺での記者会見に集まった報道陣

◆第２回「武家の古都・鎌倉」国際フォーラム◆

基調講演「都市保存への新たなアプローチ：歴史的都市景観」

ジョセフ・キングさんは、世界遺産委員会への助言機関である文化財保存修復研究国際センター（イクロム）の不動産文化財ユニット･ディレクターとして、不動産文化財に関するプログラムや活動のすべてを監督するなど、精力的な活動をしておられます。この度の講演では、ローマの例を中心に、世界の多くの都市がとりあげられ、都市保存についての様々な問題点や取り組みが紹介されるなど、いろいろ示唆に富んだ講演でした。

講師／
ジョセフ・キングさん

◉世界の歴史的都市景観

このたび重要な部分を観ることができたが、鎌倉は美しいところだ。また、このフォーラムの冒頭に行われた、中高生による鎌倉についてのプレゼンテーションは実にすばらしかった。

都市はどのように成立してきたか。多くの都市が市場・防衛拠点・宗教拠点など、様々な目的のために作られてきた。その中には歴史的・建築学的あるいは文化的に重要な都市が存在する。

ローマを取り上げてみると、その成立には４つの理由がある。① 商業地区として、② 防衛の拠点として、③ 宗教的な求心力として、④ 政権の拠点として、それぞれ適していたからだ。また、パリのように、水があり交通の便のよい都市が成長する。都市はそれらの要素によって自然に有機的に成長していくが、中にはブラジリアのように計画的に作られたところもある。通常は時とともに上に層が積み上がっていき、一番下の層が古い部分で、その間に都市の変遷が見られる。そこには計画的な変化もある。イタリア、特にローマの場合、中世的な特徴を残して造り直し、パリはそれを壊して大通りを造り、大規模に変化させるなど、都市によって違いがある。

都市を保存する場合、どうして今ある形になったかを知る必要がある。鎌倉の場合、多くの観光客が訪れるが、そこは生活のエリアでもあるから、現在の生活に対応させながら、どのようなレベルで文化的な価値があるかを知らなければならない。

◉世界遺産の条件

世界遺産に登録するには、顕著で普遍的な価値が必要であり、それには次のようないくつかの基準がある。

①エジプトのカイロ歴史地区のように、人間の創造的な才能を現す傑作であること
②ある期間世界の文化圏において、各々の価値の交流や影響関係があること
③防御的な遺構であるドブロブニクや中国のフジャン（福建土楼）のように歴史上の重要な見本となること
④歴史の重要な段階を物語っていること
⑤白川郷のような、伝統的集落や土地利用の一例であること
⑥モーツアルトゆかりのザルツブルグのように生きた芸術的作品あるいは文学的作品との関連があること

それらの一つまたはそれ以上の基準に合致すること、同時に継続性が必要条件である。急激な変化や人の対立を起こさないようにしなければならない。市民生活と協調させながら保存管理していくべきである。

◉保存の問題点

歴史的都市景観を保存するには多くの問題がある。例えば、インフラの整備のために橋が架けられて、貴重な景観が壊されてしまい、世界遺産から抹消されたドレスデンのエルベ渓谷のような問題である。イランのイスファハンでは文化財の近くに建物の計画が持ち上がったが、当初の計画を縮小して対応している。また行き過ぎた観光化のため、イタリアのフィレンツェのように、生活者の障害になっているものもある。そのような問題に対して、社会のニーズや文化財の所有者の問題を考え、経済活動やインフラなどを犠牲にしないように、建物の高さや外観など規制して、古いものと新しいものとの整合性を図っていかなければならない。新しいビルと古い建物との共存は可能である。また、大気汚染などの環境問題にも対応しなければならない。

ローマの2000年のニューマスタープランでは、交通のネットワーク、バスルートの整備、新しいビルとの調和・共存などを図り、ローマを、歴史的景観をこわさない全体像として捉えている。

鎌倉も現代的なものと歴史的なものとの調和を図っていかなければならない。